

今週（10月12日から10月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期が切り替わる週となったことで、無担保コールO/N物は、12～15日と16日でレート水準に差異が見られた。積み終盤となる12～14日は調達サイドの着地に向けた調整が本格化し、調達量を絞る先が複数見られた。水準としては高いものの、加重平均レートはこれまでの上昇基調から一転して低下となった。15日は調達余力を残していた大手行を中心に、量を優先した調達の動きが見られたことで、レートは上昇した。新積み期となった16日はレート目線が定まらない中、調達スタンスの違いから都銀業態と地銀業態でレートがやや乖離し、ワイドレンジの出会いとなったが、全般的には調達ニーズが強めのスタートとなった。ターム物は、新積み期スタートのショートターム物の出会いが見られた。日銀当座預金残高は、週初475兆円程度から始まり、各種の金融調節や年金定時払いを受けて487兆円弱まで増加した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは16日に2W物・20,000億円がオファーされ、2,801億円（期落ち額2,311億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.10～▲0.06%程度のレンジで推移した。週初12日のGCT/Nは、▲0.07～▲0.06%程度での出会い。短国買入オペが実施された13日～翌14日にかけてのT/Nは、▲0.085～▲0.075%程度にレートが低下した。新しい積み期の取引となる15日のT/Nは、▲0.10～▲0.08%程度となった。短国3M発行日の取引となる16日のT/Nは、▲0.08～▲0.075%程度に上昇した。

SCは、個別銘柄では2y408～417、5y140～145、10y340～360、20y170～173、30y59～67、40y8～13等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、オペのオファー額が大幅に増額されたものの、応札額が7兆円を超えるなど、業者の在庫の重さが意識される中、来週に入札を3回控えていることなども受けてか、やや閑散な地合いとなった。3M物・6M物においては底堅く推移し、1Y物においては横ばい圏での推移となった。

13日に実施された短国買入オペは、前回から15,000億円増額の25,000億円でオファーされた。在庫の重さが意識されてか、応札額が70,228億円と多く、平均落札利回較差+0.018%、按分落札利回較差+0.014%と、弱い結果となった。

16日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.090～▲0.085%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0834%、按分落札利回▲0.0781%と、軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.089～▲0.083%出会いと底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は15日・20日発行があったため、全体的に活況な週となった。週間の金額ベースで見ると、4,600億円程度の償還に対して、8,000億円程度の発行と発行超であった。市場残高は先週の23兆円台半ばから若干増加し、23兆円台後半となった。発行レートについては、目線が先週より下がり、日銀の適格担保銘柄は概ねマイナス圏となった。稀少銘柄ではマイナスをさらに深堀する動きも見られた。投資家の需要は引き続き強く、マイナスレートでまとまった額を調達するケースが散見された。期明けの発行が少ない中、CP等買入オペを背景に、投資家の買い姿勢がより積極化していると見られる。

13日にはCP等買入オペが、予定通りの6,000億円でオファーされた。期明けの発行が少なく、モノ不足感からレート低下が期待される中、結果は按分レート▲0.038%・平均レート▲0.021%と、前回（按分▲0.034%・平均▲0.027%）から按分は低下・平均は上昇という結果になった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
10/12（月）	23,558.69	0.025	105.65	△ 0.016	△ 0.068	4,751,000
10/13（火）	23,601.78	0.025	105.37	△ 0.020	△ 0.082	4,754,300
10/14（水）	23,626.73	0.026	105.43	△ 0.020	△ 0.084	4,779,800
10/15（木）	23,507.23	0.020	105.24	△ 0.014	△ 0.090	4,868,600
10/16（金）	23,410.63	0.020	105.25	△ 0.033	△ 0.080	4,869,100

来週（10月19日から10月23日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/19 (月)	9月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 10/20発行			
10/20 (火)		20Y 12,000億円 10/21発行			9月の米住宅着工件数
10/21 (水)					米ページブック 9月の英消費者物価指数
10/22 (木)		TB6M 38,000億円 10/26発行			9月の米中古住宅販売
10/23 (金)	9月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 月例経済報告 (内閣府)	TB3M 75,500億円 10/26発行	交付税借入 11,000億円 11/5借入		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/19 (月)	▲ 200	▲ 14,400	▲ 14,600	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,300 ▲ 300 100	2,800	300	▲ 14,300	TB3M発行▲75500償還61600
10/20 (火)	0	▲ 21,000	▲ 21,000				0	▲ 21,000	TB1Y発行▲35000償還12400 エネルギー対策借入▲7000期日6500
10/21 (水)	0	▲ 12,000	▲ 12,000				0	▲ 12,000	20Y発行▲12000
10/22 (木)	▲ 1,000	1,000	0	社債買入		2,000	2,000	2,000	
10/23 (金)	0	17,000	17,000				0	17,000	各種財政資金の払い 交付税借入▲10000期日11000
週 間 合 計	▲ 1,200	▲ 29,400	▲ 30,600	—	▲ 2,500	4,800	2,300	▲ 28,300	

10/19は日銀予想、10/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今積み期は基準比率が20.5%に低下（前期24.0%）しているものの、貸出増加支援オペや新型コロナ支援オペによるマクロ加算残高増加の影響が強く出ており、引き続き調達ニーズが強い展開が想定される。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいからやや上昇することが予想される。レポ市場は、GC T/Nは▲0.11～▲0.07%程度での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、22日に6M物、23日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化が懸念される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、21日に予定されている短国買入オペのオフアールにも注目したい。CP市場は、月下旬に入り、発行の増加が期待される。市場残高が24兆円台を回復するかどうか注目したい。

主要なイベントは、21日のページブック、23日の9月の全国消費物価指数などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入